ATP

ATP AWARD

2019

ASSOCIATION OF ALL JAPAN
TV PROGRAM
PRODUCTION COMPANIES
AWARD

創り手が選ぶ
創り手のための賞！

▶▶ 第35回ATP賞テレビグランプリ
受賞作を振り返る

THE 35TH GRAND PRIX

ドラマ10「透明なゆりかご」

NHKエンタープライズ / NHK総合

CONTENTS

03 グランプリ＆最優秀賞

ドラマ10 「透明なゆりかご」

05 最優秀賞

BS1スペシャル テロリストの母と呼ばれて　闘いと再生の記録

見上げればあなたはいつもそこに ～祝 還暦・拝啓東京タワー様～

07 優秀賞

ETV特集 写真は小さな声である ～ユージン・スミスの水俣～

シリーズ・子どもたちの夢 チベット 遥かな心の旅 ～中国～

新日本風土記 釜ヶ崎

木曜プラチナイト ～両親ラブストーリー～ オヤコイ

田原総一朗の全力疾走スペシャル さらば平成、新元号ニッポンを変える！

若冲vs.北斎 ～夢の天才対決～

NHKミステリースペシャル 満願 万灯 夜警 満願

テレビ東京開局55周年特別企画ドラマスペシャル 『Aではない君と』

花へんろ 特別編 春子の人形

12 奨励賞

BS1スペシャル ラップと知事選 沖縄 若者たちの声

BS1スペシャル 老いてなお 花となる 第二章 俳優・織本順吉 92歳

世界はTokyoをめざす 55歳のオリンピアン 笑顔の理由 ～ルクセンブルク 卓球～

じわじわくる映像アワード2018

サンバリュ ネタドラ 漫才・コントを原作にドラマ化

東大王

土曜時代ドラマ ぬけまいる 女三人伊勢参り

読売テレビ開局60年スペシャルドラマ 約束のステージ 時を駆けるふたりの歌

ドラマ「女川 いのちの坂道」

15 最優秀新人賞＆優秀新人賞

長谷川 玲子

16 優秀新人賞

杉本 曉子

小林 哲平

17 奨励新人賞

押田 幸

鹿島 悠

谷口 彦薫

本田 拓也

上田 迅

19 特別賞

田原 総一朗

樹木 希林

20 総務大臣賞

スローな武士にしてくれ 京都 撮影所ラプソディー

21 講評

総評 / 部門講評

新人賞講評 / 総務大臣賞講評

グランプリ
THE 35TH GRAND PRIX

ドラマ部門 **最優秀賞**

ドラマ10

「透明なゆりかご」

NHKエンタープライズ / NHK 総合

制作統括	須崎岳（NHKエンタープライズ）
演出	柴田岳志（NHKエンタープライズ）
	村橋直樹（NHKエンタープライズ）
	鹿島悠（NHKエンタープライズ）
美術	小林史幸（NHK デザインセンター）
技術	長谷川理（NHKメディアテクノロジー）
音響効果	島津楽貴（NHK デザインセンター）

受賞者コメント

このたびはグランプリという素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。ドキュメンタリー部門の最優秀賞「テロリストの母と呼ばれて」、情報・バラエティ部門の「見上げればあなたはいつもそこに」ともにダイジェストを見るだけでも大変魅力的な作品でしたので、その中で選出されたのは本当に光栄な事です（実際、得票数は大接戦でした）。“命とは”という普遍的でありながら簡単に答えの出ない命題に、スタッフ・出演者一同、愚直に向き合って参りましたが、観てくださった人々の胸にちゃんと届いていたのだなと、あらためて喜びをかみしめております。そして、視聴者の皆さんの支持にも背中を押される形で、8月3日（土）の深夜から「透明なゆりかご」全10話が数日にわたり再放送されました。シビアな題材の回もあったと思いますが、命とは何か、世代や立場を問わず今いちど、向き合う機会となったならば幸いです。

制作統括　須崎 岳（NHKエンタープライズ）

講評

社会派ドラマでありながら、実にやさしさに溢れたドラマだった。第一話から、人の死因一位は実は人工妊娠中絶だと驚きの事実を突きつけられる。バイトで看護師見習の主人公が初めて与えられた仕事は“中絶された命”を小瓶に集めること。何本も並ぶ小瓶に彼女は語り掛ける。「よかったね、ひとりじゃなくて」。秀逸な脚本、演出、映像、そして音へのこだわり、キャストの生き生きとした表情が、『命の重さ』を見事に伝えてくれた。

内丸摂子

最優秀賞
THE 35TH BEST AWARD

情報・バラエティ部門

BS1スペシャル テロリストの母と呼ばれて
闘いと再生の記録

アマゾンラテルナ / NHK BSI

制作統括　浜野高宏(NHK)
　　鈴木浩(アマゾンラテルナ)
ディレクター・撮影　竹岡寛俊(アマゾンラテルナ)
撮影　山内泰
編集　Herbert Hunger
音響効果　細見浩三(D3PROJECT)
コーディネーター　ドクワゼ・タマリ(Sakura LTD)

受賞者コメント

「私のような経験をする母親を二度と生んではならないのです」撮影中、主人公のレイラは何度もそう口にしました。紛争で人生を狂わされ、家族を失ったレイラのような人は世界に無数にいて、その悲劇は今なお続いています。『テロの脅威』とは凄惨な事件だけではなく、世界が無関心であり続け、このような悲劇を生み出し続けることだと思います。過去と向き合い、勇気を持って出演してくれたパンキシ渓谷の人々に感謝いたします。

ディレクター　竹岡 寛俊 (アマゾンラテルナ)

講評

テロで息子を失いながらも、“テロの巣窟”と呼ばれた故郷が実は豊かな土地だと伝えるために奔走する母親たち。そこに魅せられた異国の女性と人生を模索する元兵士。それぞれが時代や宗教に翻弄されながらも懸命に生きる姿を、過度な情報を排した演出で実に魅力的に描いた。取材の難しかった土地で母親たちとの信頼関係を築き取材を続けた制作陣に感服。今後目指すべきドキュメンタリー番組の一つの形を示していると感じた。

伊豆田 知子

最優秀賞 BEST AWARD

最優秀賞
THE 35TH BEST AWARD

情報・バラエティ部門

見上げればあなたはいつもそこに
～祝 還暦・拝啓東京タワー様～

テレコムスタッフ / NHK BSプレミアム

制作統括　渡辺圭(NHK)
　　伊藤純(NHKエンタープライズ)
　　大伴直子(テレコムスタッフ)
プロデューサー　石川竜輝(テレコムスタッフ)
ディレクター　伊勢朋矢
撮影　水野宏重(海プロダクション)
編集　太田一生(エール)

受賞者コメント

海外ロケから「帰ってきたなぁ」と実感するのは、首都高レインボーブリッジから東京タワーが見えたとき。そして芝公園を通りタワーを見上げると、自分が一回り成長したような気分に… その魔法は残念ながら編集が始まると解けてしまいますが、東京タワーには不思議な「肯定力」がある気がします。見上げればあなたはいつもそこに。還暦の赤い鉄塔に見守られ、これからも仲間と共に番組を作り続けます。本当にありがとうございます。

ディレクター　伊勢 朋矢

講評

60周年を迎えた東京タワー。物言わぬ鉄塔を主役に、作った人、そこで働いていた人、ずっと眺めていた人、支えられた人、励まされた人…などなど、様々な視点と手法を駆使して描いた力作。一つのモチーフを、自由な発想と多角的なアングルで見せるオムニバスな演出は、生きていくこと、働くこと、愛すること、誇りを忘れないことなどを改めて思い出させてくれた。静かな語り口ながらとても雄弁な日本人論だった。

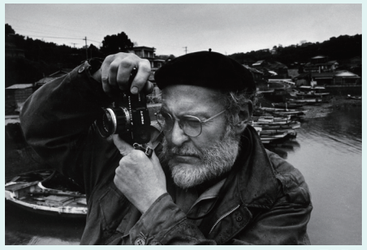
松葉 直彦

優秀賞 OUT STANDING PERFORMANCE AWARD

ドキュメンタリー部門

ETV特集 写真は小さな声である ～ユージン・スミスの水俣～

ドキュメンタリージャパン / NHK Eテレ



撮影：石川武志

受賞者コメント

「偉大な写真家がいました、っていう作りはやめてね」それがユージン・スミスの元妻で写真集『水俣』の共同制作者、アイリーンさんからの唯一のお願いでした。その言葉を念頭に、撮影された患者さんやご家族にお会いし、膨大な資料と格闘していくと、20世紀を代表する写真家であっても、被写体の美しさを表現できない無力さに震え、撮影が患者やその家族を傷つける事に苦しむ姿が浮かび上がってきたのです。それは我が身にも自戒となりました。この先も放送することの意味を考えながら、取材対象者とは誠実に向き合い、震え、苦しんでいきたいです。

ディレクター　木村 直人
（ドキュメンタリージャパン）

講評

水俣病を世に知らしめた写真家ユージン・スミス。彼の、被写体に対する深い愛と苦悩に心打たれる。患者の本当の叫びが撮れない、自分は患者を傷つけてはいないだろうかー。番組は写真や証言、録音テープを掘り起こし、彼の葛藤を丹念に紡ぐ。取材、撮影、編集、音響効果、全てが融合した秀作。「なぜその事象に関わるのか、なぜカメラを向けるのか、責任を持つ覚悟があるのか」ユージンからのメッセージが忘れられない。

稲垣 綾子

ディレクター　木村直人（ドキュメンタリージャパン）
制作統括　橋本佳子（ドキュメンタリージャパン）、塩田純（NHK）、太田宏一（NHKエンタープライズ）
撮影　井手口大騎 ダグラス（いちまるよん）
編集　鈴尾啓太　/　音響効果　泉清二（ノイズ）

ドキュメンタリー部門

シリーズ・子どもたちの夢 チベット 遥かな心の旅 ～中国～

Osong Media、東京ビデオセンター / NHK BSI

受賞者コメント

チベットには、まだドキュメンタリーの作り手がほとんどいません。カメラマンすら見つからない中、チベット人のディレクターが自分で撮影も録音も行いながら、撮影地の学校に約1年間住み込み、この作品を作りました。チベットのドキュメンタリーの歴史は始まったばかりですが、その第一歩にATP賞をいただくことができ、大変うれしく思います。また、この作品を通して「リアルなチベット」に触れていただけたらと切に願います。

プロデューサー　松尾 みゆき
（Osong Media）

講評

チベット族の孤児院に通う2人の少女が、自分を捨てた親に会いに行く。その旅に寄り添うのは、チベット人監督。ナレーションはなく、登場人物と監督とのやりとりで話が進んでいく。少女の祖母は「監督が一緒なら安心だ」と少女を託す。監督がひとりの人間として正面から少女と関わっていく様が映像から伝わり、番組全体の温かさと奥深さを生んでいる。このような作りには、ドキュメンタリーファンを増やす力があると感じた。

稲垣 綾子

撮影・音声・ディレクター　カシャムジャ（Osong Media）
編集　Herbert Hunger　/　音楽　Mika Kawada
取材　ランドゥクツェラン（Osong Media）
プロデューサー　松尾みゆき
制作統括　リンチェンドルジェ（Osong Media）、佐野岳士（東京ビデオセンター）

ドキュメンタリー部門

新日本風土記 釜ヶ崎

NHKプラネット近畿総支社、ダイメディア / NHK BSプレミアム

受賞者コメント

ドキュメンタリー映画の舞台やテレビの特集が組まれることも多い「西成・釜ヶ崎」。今回は街に暮らす人達の日常を、風土記の特徴でもあるオムニバス形式によって“面”で捉えることで、この番組にしかできない姿を描くことができました。「日本のスラム」「暴動の街」というイメージが未だに残る街ですが、これを機に“今を生きる人の姿”を通して、イメージを超えた先にある釜ヶ崎を多くの方に見てもらえれば幸いです。

ディレクター　柳翔太朗
（ダイメディア）

講評

その人にどこまで近づけるか、どれだけ心を開いてもらえるか、ドキュメンタリーの勝負所の一つである。見られたくない、隠しておきたい、それらを撮ることを許して頂くまでにかかった貴重な「時間」が、カメラを向ける相手の一言一言に染み込んでいた。厳しい環境で生きる中にも「日本を造ってきた一人」という誇りが垣間見えた。600円で買った上下洋服を手に、入社式へ向かう男性の後姿に、生きる大切さを感じずにはいられない。

高安 克明

プロデューサー　日比野和雅（NHKプラネット近畿総支社）、
森下光泰（NHK大阪放送局）
ディレクター　柳翔太朗（ダイメディア）、眞舘祐輔（ダイメディア）、蓼原大介（ダイメディア）
カメラ　浜崎務（翔の会）　/　編集　行徳美津子（映像プロ）

情報・バラエティ部門

木曜プラチナイト ～両親ラブストーリー～ オヤコイ

吉本興業、共同テレビジョン / 讀賣テレビ放送

©ytv

受賞者コメント

「両親の出会いは？」「両親のプロポーズの言葉は？」知っているようで知らない両親のラブストーリー。出演者の皆様、取材にご協力いただいた皆様、共同テレビさんはじめ制作スタッフの皆様、全ての「想い」で制作されたとても感動的な番組です。素晴らしい受賞への感謝と共に、このような作品にスタッフとして携わらせていただき大変光栄に思います。

プロデューサー　森 俊和
（吉本興業）

講評

類似の企画はこれまでにも数多あったであろう新鮮味のなさ。しかしその懸念は見事に裏切られた。芸能人の両親の出会いをドラマ化し、スタジオで本人を恥ずかしがらせるという、その場限りの面白さだけに収まらなかった。温かな読後感への展開とパッケージの巧みさは、バラエティ班とドラマ班との、より高みを目指した見事なコラボの賜物に他ならない。

松葉 直彦

プロデューサー　汐口武史（讀賣テレビ放送）、伊藤隆洋（讀賣テレビ放送）
森俊和（吉本興業）、鈴木一慶（吉本興業）
演出・プロデューサー　藪木健太郎（ベイシス）
ドラマ演出　小椋久雄　/　構成　樫野太紀

情報・バラエティ部門

田原総一朗の全力疾走スペシャル さらば平成、新元号ニッポンを変える！

ドキュメンタリージャパン / BS朝日

受賞者コメント

この度は優秀賞をいただき、誠にありがとうございます。今回の取材を通して田原さんから頂いた「絶対に言論の自由を守る。戦争をさせない。意見の違う人間の存在を認める」と言うメッセージ。その田原さんの言葉を、私たちもしっかりと受け止め、平成の次の時代に伝えていきたいと思います。田原さん、小川彩佳さん、出演者の皆さん、そしてタイトル通り、全力疾走で一緒に番組を作ってくれたスタッフに心から感謝いたします。

ディレクター　長谷川 三郎
（ドキュメンタリージャパン）

講評

国会で国会議員を呼びだして、本音で聞き出す、田原総一朗さん。長くテレビで活躍し、正直で正論、そのキャラクターは今だに魅力的です。現在85歳、「生きているうちに、日本を世界でどうするか、これをやる！」その言葉からスタートし、構成されていくパワーにのめり込みました。言論の自由、タブーなし！日本を戦争させない！野党を強くしたい！金言の宝庫です。

伊藤 慎一

ディレクター　長谷川三郎（ドキュメンタリージャパン）、児玉知仁（ドキュメンタリージャパン）
撮影　高野大樹
プロデューサー　橋本佳子（ドキュメンタリージャパン）、中嶋豪（テレビ朝日）
村田卓（BS朝日）、遠藤行泰（BS朝日）

情報・バラエティ部門

若冲vs.北斎 ～夢の天才対決 ～

NHKエンタープライズ / NHK BS4K、BSプレミアム

受賞者コメント

この度は情報バラエティ部門・優秀賞をいただき大変嬉しく思っております。
NHKが8Kで撮影してきた美術作品を使った展開番組を制作できないか、というところからスタートした企画です。江戸絵画の大スター伊藤若冲に佐々木蔵之介さん、そして葛飾北斎にムロツヨシさんを迎え、アドリブ連発の舞台風ドラマパートが出来上がりました。江戸絵画になじみのない人でも楽しめる、入り口のような番組になっていれば望外の幸せです。

ディレクター　大田 雄史
（NHKエンタープライズ）

講評

佐々木蔵之介とムロツヨシという名優二人による、若冲と北斎の邂逅。もちろんフィクションではあるが、膨大な資料から読み解いたであろう構成・演出は、どんな綿密な取材や豪華な美術展よりも、二人の天才を体温と実感をもって感じさせてくれた。時間や予算の制約ゆえか…しかし演劇的手法を取り入れた演出で、よりテレビ的なエンターテインメントが実現した。

松葉 直彦

制作統括　稲毛重行（NHK）
紙屋聡（NHKエンタープライズ）
プロデューサー　小山靖史（NHKエンタープライズ）
ディレクター　大田雄史（NHKエンタープライズ）

ドラマ部門

NHKミステリースペシャル 満願 万灯 夜警 満願

日テレ アックスオン / NHK 総合

受賞者コメント

1年前、原作の米澤穂信さんと脚本の大石哲也さんから受け継いだシナリオを、萩生田監督・榊監督・熊切監督始めとしたスタッフと西島秀俊さん・安田顕さん・高良健吾さんを始めとした俳優と格闘しながら、ラオス、伊東市、甲府市と撮影した日々が思い起こされます。様々な困難が立ち塞がりましたが、本格ミステリードラマを作る信念のもと、こうして評価して頂いた事は、本当に報われたと全ての関係者を代表して感謝しております。

プロデューサー（制作統括）　仲野 尚之
（日テレ アックスオン）

講評

何より大人が楽しめるドラマだった。「万灯」ではビジネスマンの狡猾さに手に汗握り、「夜警」では警官の言い知れぬ冷や汗を感じ、「満願」では元下宿人の弁護士が被疑者の企みを知った刹那、私もため息をついた。原作の昭和の設定を平成に変更したことが、特に「夜警」では功を奏している。ベテランと新人警官の今どき感は、現代のひずみを見せられたようで恐ろしく感じたほど。三夜連続の一時間ドラマという試みも新鮮だった。

内丸 摂子

制作統括　出水有三（NHK）、仲野尚之（日テレ アックスオン）
演出　萩生田宏治、榊英雄（ファミリーツリー）
脚本・演出　熊切和嘉（NIKORO）
撮影　近藤龍人、鎌苅洋一

ドラマ部門

テレビ東京開局55周年特別企画ドラマスペシャル 『Aではない君と』

ドリマックス・テレビジョン / テレビ東京

©テレビ東京・講談社

受賞者コメント

殺人を犯した少年と父親を描いた今作は、とても難しい題材でした。「少年犯罪」「加害者と被害者双方の苦しみ」「贖罪のあり方」などの重いテーマから逃げずにまっすぐ向き合い、キャスト・スタッフ陣と共に話し合いを幾度となく重ねました。佐藤浩市さんがインタビューで語られていましたが、この作品は「作る覚悟」と「見る覚悟」が必要な作品だったと思います。その思いが形になり、多くの人の心に届き、こうして受賞できたことをとても誇りに思います。本当にありがとうございました。

プロデューサー　新井 順子
（TBSスパークル（制作当時：ドリマックス・テレビジョン））

講評

よく練られた構成が◎。重たいテーマなのに目をそらす気にならず、最後まで惹きつける力がある。もっと劇的に描こうと思えばその方が簡単だったかもしれないが、安易にそれをせず、冷静に丁寧に作り上げた脚本・演出だった。それを演じる佐藤浩市氏、天海祐希氏はじめキャスト陣も秀逸。親の身勝手さや、親の動揺の伝え方が巧い。「逃げないで向き合ってください」のセリフは、親世代にはグサっと胸に突き刺さる。

佐野 奈緒子

チーフプロデューサー　稲田秀樹（テレビ東京）
プロデューサー　倉地雄大（テレビ東京）、新井順子（ドリマックス・テレビジョン）
加藤章一（ドリマックス・テレビジョン）
監督　塚原あゆ子（ドリマックス・テレビジョン）

OUT STANDING PERFORMANCE AWARD

ドラマ部門

花へんろ 特別編 春子の人形

東北新社 / NHK BSプレミアム

©2018NHK・東北新社

受賞者コメント

今回のドラマ、あなたは「最後にどうしても、未来のために書き残したい」とおっしゃっていましたね。しかし、2年前、まさに本が出来上がろうとしていた時に突然、私たちの前を去られました。ドラマの出来上がりはご満足いただきましたか？一番、感想を聞きたかった、あなたはいないけど、早坂暁さん、あなたの思いは、多くの人の心に届きました。この受賞はあなたのものです。天国で、あの人懐っこい笑顔で、お受け取り下さい！

制作統括　千葉 聡史（NHK）

講評

「ドラマ・人間模様」に万感。戦争文学、悲恋物語である。「夫婦になってもええんよ」の言葉に胸躍らす春子を芦田愛菜が好演。海峡を渡る妹、「兄ちゃんに会いたい」そしてヒロシマの悲劇。春子は人形を残して消滅する。戦後の孤独に右往左往する兄（坂東龍汰が新鮮）お遍路旅の果て、兄と妹の再会。夢模様のラストは名人芸。笠に書かれた同行二人、空海でなく早坂暁さんが笑っている。合掌。

雨宮 望

制作統括　千葉聡史（NHK）、
加藤邦英（プロジェクト暁）
プロデューサー　伴野智（東北新社）
演出　平山武之

奨励賞 INCENTIVE AWARD

ディレクター　仲宗根千尋（グループ現代）
撮影　大久保千津奈
編集　前嶌健治（ギトリ）
制作統括　田野稔（グループ現代）
森博明（NHKエデュケーショナル）
久米麻子（NHK）

ドキュメンタリー部門

BSIスペシャル ラップと知事選 沖縄 若者たちの声

グループ現代 / NHK BSI

受賞者コメント

知事選の10日前、ほぼ何も決まっていない状態で撮影に入った。沖縄が抱える問題に対して力強いメッセージを発信しているラッパーを探すも、見つからない。ラッパーたちの言葉は何だか曖昧で、思い描いていたものとは違っていた。焦りと不安が募る中、ふと、彼らの声こそ、簡単には割り切れない複雑な思いや現状を表しているのではないかと思った。本音で答えてくれたラッパー、それを受け止めてくれた視聴者の方々に感謝したい。

ディレクター　仲宗根 千尋（グループ現代）

講評

大きな関心事でありながら、十分に議論されることの少ない沖縄の基地問題。そんな中で注目された沖縄県知事選挙を機に、地元のラッパーに注目することで、若い世代のリアルな思いを伝えた。生まれたときから白か黒かで割り切ることのできない問題の渦中にいる彼ら。その複雑な胸中を、ナレーションやBGM、効果音を廃し、彼ら自身が表現するラップとインタビューだけで綴るスタイルは新鮮で、彼らの本音が際立った。

伊豆田 知子

ディレクター・撮影　中村結美
プロデューサー　正岡裕之（かわうそ商会）
編集　山内洋子
音響効果　金田智子
ＡＰ　小林ひろ子（かわうそ商会）
制作統括　荻野太朗（NHKエンタープライズ）
井手真也（NHK）

ドキュメンタリー部門

BSIスペシャル 老いてなお 花となる 第二章 俳優・織本順吉 92歳

かわうそ商会、NHKエンタープライズ / NHK BSI

受賞者コメント

『セリフ覚えが自慢だった俳優が、覚えられなくなる』…そんな老人にカメラを向けたのは、『老い』という現実を受け入れて欲しかったからでした。でも夫であるより父であるより俳優だった人は、『素の自分に戻ること』すら、わからなくなっていました。老いて死ぬ。誰にでも訪れる、当たり前のことが難しい時代です。『完成して死ぬ人なんていないよ』父の言葉が、まだチリチリと熾火のように残っています。

ディレクター・撮影　中村 結美

講評

「父と娘」だから撮れる一方、「父と娘」であっても越えられないものがある。この二つが鮮明に描かれている。老い、それは役者生命への危機、不安と葛藤が家族の衝突を生んでいく。演技の及ばないドキュメンタリーそのもののシーンは心に突き刺さった。だが、役者魂はこの一言に貫かれていた。「後ろから撮るな！」回るカメラに向き合い、懸命に応じようとしていた姿。まさに、織本順吉が最後まで名優であった確かな証である。

高安 克明

ディレクター　田島櫻子（テレコムスタッフ）
撮影　大髙明毅、佐藤 洋祐
編集　瀬戸山真也（ニトロ）
制作統括　川口潤（NHK）
森 博明（NHKエデュケーショナル）
明仁 絵里子（テレコムスタッフ）

ドキュメンタリー部門

世界はTokyoをめざす
55歳のオリンピアン 笑顔の理由 〜ルクセンブルク 卓球〜

テレコムスタッフ / NHK BSI

受賞者コメント

この番組は55歳の卓球選手ニーさんの幸せな笑顔がどこから来るのか、何が彼女を輝かせているのか？アスリートのハートの中を、心を込めて描いたドキュメントです。国境も年齢も越えて活躍を続けるニーさんの姿にはTokyoをめざすこと以上に、人生をどう生きていく事が幸せかを教えてもらった気がします。世界にはこんな選手もいる！ということを、これからも番組を通して伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

ディレクター　田島 櫻子（テレコムスタッフ）

講評

スポーツ中心の番組だと思いきや、それは気持ちがいいくらいに裏切られる。主人公は、中国からルクセンブルクに帰化した卓球選手ニー・シャーリエンさん（55）。人種の違い、文化や国の違い、年齢の違い、そうしたあらゆる“違い”。それらを乗り越え生き抜くことはとても困難に思える。しかし彼女の生き様や人柄、考え方から、可能なのだと痛感させられる。オリンピック・パラリンピックにこそ求められる世界観を感じさせる力作。

稲垣 綾子

企画・演出　津郷大吾（日テレ アックスオン）
企画　加藤麻里（日テレ アックスオン）
　　西川哲也（日テレ アックスオン）
　　野田洋二（日テレ アックスオン）
構成　あさのますみ（青二プロダクション）
ディレクター　上田容史（日テレ アックスオン）
プロデューサー　大澤裕二
　　（日テレ アックスオン）

情報・バラエティ部門

じわじわくる映像アワード2018

日テレ アックスオン / 日本テレビ放送網

受賞者コメント

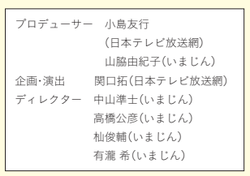
「保存編集」。映像を使いやすく編集し未来の財産として残すアーカイブチームの仕事。大量の映像と向き合ったとき、ある感覚が…。「衝撃」でも「感動」でもなく「じわじわ」。試行錯誤した結果、多くの人に見ていただきATP賞というプレゼントも！映像を見出したアーカイブチーム、ヘンテコな編集に悪戦苦闘したスタッフ、悩みを解決してくれた作家のあさのますみさん…共に喜びを「じわじわ」噛みしめたいと思います。

企画・演出　津郷 大吾
（日テレ アックスオン）

講評

数多ある衝撃映像系番組との違いを出すことなどできるのか？じわじわとは何なのか？と思ったが、確かにじわじわと笑える映像ばかり。なぜか伊吹吾郎とまひるという異色ナレーションもテーマにぴったり。あえて埋もれがちな映像に注目し、最後まで「じわじわ」にこだわってまとめあげている点にライブラリー担当者ならではの着目点と情熱を感じた。

大野 光浩



プロデューサー　小島友行
　　（日本テレビ放送網）
　　山脇由紀子（いまじん）
企画・演出　関口拓（日本テレビ放送網）
ディレクター　中山準士（いまじん）
　　高橋公彦（いまじん）
　　柚俊輔（いまじん）
　　有瀧 希（いまじん）

情報・バラエティ部門

サンバリュ ネタドラ 漫才・コントを原作にドラマ化

いまじん / 日本テレビ放送網

受賞者コメント

コントのスペシャリストはドラマの監督の才能も持ち合わせているのか！？をテーマに今回はかまいたちさん、コロチキさん、ハナコさんのネタを監督・脚本・主演を芸人さん自身にお願いし「感動」「ミステリー」「ファンタジー」といったジャンルの違うドラマに変化させました。収録後にMCのさまぁ～ずさんから「ただただ楽しかった！」と言って頂き「テレビって良いなぁ・・・」と改めて思えた番組です。ご協力頂いた全ての皆様に感謝致します！

プロデューサー　山脇 由紀子
（いまじん）

講評

KYな青年の失恋コントが涙の純愛ドラマに。2面性を持つ優等生のサイコキャラと共に笑いもパワーアップ。妖精コントは少年の泣き虫のてんどん笑いから意外な結末に。約10分間にどんでん返しの連続と想像しなかった結末。そしてコント王者らしい細部にこだわった笑いや、CG・編集技術も生かした新たな笑いも加わり、笑えるドラマに作りこまれていた。脚本監督は芸人というが、その裏で制作陣の奮闘は想像できる。

大野 光浩

プロデューサー　福田健太郎（TBSテレビ）
　　新井康孝（TBSスパークル）
　　張眞英（YELLOW）
総合演出　山口伸一郎（TBSスパークル）
演出　長井貴仁（TBSスパークル）
　　野田裕司（TBSスパークル）

情報・バラエティ部門

東大王

TBSスパークル、YELLOW / TBSテレビ

受賞者コメント

素晴らしい賞を頂戴し、誠に有難う御座います。約2年前に番組がスタートした当初は「レギュラー出演者が素人東大生たちの番組」が果たして上手くいくのか？不安の声もありましたが、彼らの頭脳・知識の凄さ、そして人柄が世間に認知されるにつれ、番組も安定してきました。今後も、「家族で楽しんで見られる番組」をモットーに、スタッフ一同、真摯に番組制作に取り組んでいきたいと思います。

総合演出　山口 伸一郎
（TBSスパークル）

講評

スター東大生を相手に芸能人軍団が挑む！いう新形態。だがその中には謎かけ、難漢字、昭和映像、新幹線など実は3層が好きな内容がぎっしり詰まっている。ネットの台頭や高齢化を背景に今、テレビが直面している視聴率問題。新しいものを生み続けながら大票田の3層をいかにとりこむか？というジレンマに対し独自のマーケティングと抜群の編集テクニックで見事に結果を出している。

大野 光浩

©NHK

プロデューサー・制作統括　小松昌代
　　（NHKエンタープライズ）
演出　黛りんたろう（NHKエンタープライズ）
美術　稲葉寿一
技術　水野富裕（NHKテクノロジーズ）
音響効果　加藤直正（NHK）
撮影　丸山真（NHKテクノロジーズ）
照明　鴨下正美（NHKテクノロジーズ）

ドラマ部門

土曜時代ドラマ ぬけまいる ～女三人伊勢参り～

NHKエンタープライズ / NHK 総合

受賞者コメント

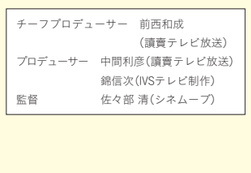
「笑って泣いて、胸が空く」そんな時代劇を見ていただきたい一心で、スタッフ、キャスト一丸となりました。三十路過ぎの女たちには、こんな筈じゃなかった！と気づく瞬間があります。旅に出て、異なる風景に身を置き、さまざまな人生と出会い、自らをギアチェンジする。三十路過ぎの今が旬と、女優三人がんばりました。テレビの前で一緒に旅をしている気分になって、突っ込みを入れながら、そんな姿が胸に届いたならばと、皆で抱き合って喜んでおります。

制作統括　小松 昌代
（NHKエンタープライズ）

講評

今までの時代劇にありそうで無かった「女3人旅」という新しいフォーマットを実現させた功績は大きい。若すぎず少し苦難も経験した年代の3人だから視聴者の共感も呼ぶ。それは制作者の狙い通りだろう。弾んでいるように見えても夫々抱えている悩みがあり感情移入できる脚本が良くできている。一番女っぽくない設定のお以乃が恋に堕ちていくのが良かった。時代劇で不可欠の痛快さも忘れていない。大地真央・滝沢秀明も好演だった。

佐野 奈緒子



©ytv

チーフプロデューサー　前西和成
　　（讀賣テレビ放送）
プロデューサー　中間利彦（讀賣テレビ放送）
　　錦信次（IVSテレビ制作）
監督　佐々部 清（シネムーブ）

ドラマ部門

読売テレビ開局60年スペシャルドラマ 約束のステージ 時を駆けるふたりの歌

IVSテレビ制作 / 讀賣テレビ放送

受賞者コメント

このドラマの舞台になります「全日本歌謡選手権」は1970年、弊社の名誉会長・斉藤寿孝が、読売テレビのディレクター時代に立ち上げたオーディション番組です。このオリジナル企画で奨励賞を頂けたことを関わってくれたスタッフ、キャストの皆さんに深く感謝します。中でもこの歌謡曲全盛時代には、まだ生まれてもいなかった土屋太鳳さん百田夏菜子さんが活き活きと歌ってくれた説得力が大きかったと思っています！ありがとう！！

プロデューサー　錦 信次
（IVSテレビ制作）

講評

歌を題材にしたドラマは、歌詞をぶつ切りに出来ないし、メロディの時間的制約を考慮しながら演出する必要があるが、この作品は音楽と台詞の間合いが全編にわたって実に計算されている。例えばスナックとバーのカットバックシーンで、向井氏の歌を邪魔しないタイミングで矢田氏土屋氏の会話が絶妙の間合いで差し込まれる。そのテクニックが見続けたいと思わせる心地よさを作っている。読売テレビ開局記念ならではの題材も良かった。

佐野 奈緒子

演出　石井永二（テレビマンユニオン）
プロデューサー　合津直枝（テレビマンユニオン）
撮影　夏海光造（海プロダクション）
ドローン撮影　請川博一（レイプロジェクト）
技術　北川恵（NHKテクノロジーズ）
制作統括　茂木明彦（NHK）
　　三浦尚（NHKエデュケーショナル）

ドラマ部門

ドラマ「女川 いのちの坂道」

NHKエデュケーショナル、テレビマンユニオン / NHK BS4K

受賞者コメント

クランクイン当日までドローンを憎んでいました。“ドラマ全カットドローン撮影”にはあまりにも制約が多いからです。ですがそのおかげで、あえて崩す演出（初心者が撮ったような不安定なアングル、一発本番の瑞々しい演技、粗さを残す編集など）に挑めました。ドローン撮影の規制が厳しくなる今、笑顔で協力して下さった女川の方々にも感謝！震災から8年、秋の風物詩「秋刀魚収穫祭」も大勢の観光客で賑わうことを祈っています。

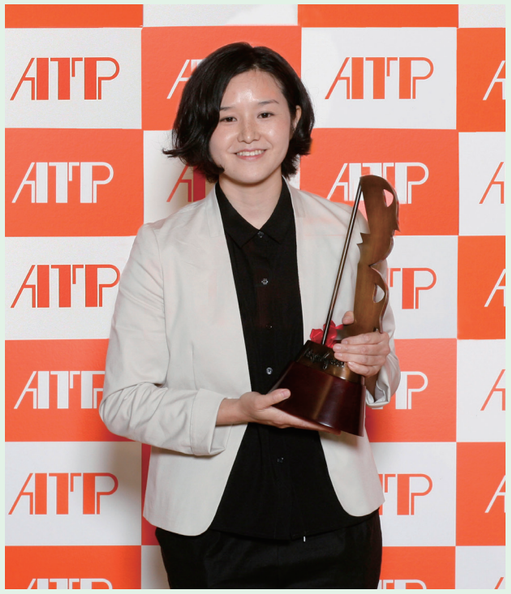
演出　石井 永二
（テレビマンユニオン）

講評

ドローンの羽音が聞こえる。故郷の静かな午後のひととき。少女が波打際で独り躍っている。行方不明の母に贈るレクイエム、少女の初めの一歩だ。被災地の8年後の「今」を描く。映像は風を感じる。空撮の視点も技アリ。テレビはただの現在でしかない。この制作会社の真骨頂。津波の到着点に石碑を建てる物語。くもっと遠くに逃げろ！＞のリアルが伝ってくる。願わくばドローンよ、今も沖には未来（原発）あり、か？乞う続篇。

雨宮 望

最優秀新人賞＆優秀新人賞
BEST NEWCOMER AWARD



ディレクター・撮影
長谷川 玲子
（セイビン映像研究所）

〈BS フジサンデースペシャル〉
ザ・ノンフィクション特別編
母の涙と罪と罰
BSフジ

プロデューサー・撮影　河村正敏（セイビン映像研究所）
ディレクター・撮影　長谷川玲子（セイビン映像研究所）
構成　吉野和子（セイビン映像研究所）
撮影　佐藤力（セイビン映像研究所）
技術　岡部聡（セイビン映像研究所）
挿入音楽　日向敏文
チーフプロデューサー　張江泰之（フジテレビジョン）

受賞者コメント

この度はこのような素晴らしい賞をいただき、本当に有難うございます。３年前、これから人生をやり直したいと動き始めた元ヤクザの人たちと偶然に出会い、取材を始めました。何度も方向転換を迫られる出来事に直面し、果たして完成できるのかと全く先の見えない日々でした。しかしそれは、主人公たち自身が全く先の見えない日々を生きているということなのだと痛感しました。がむしゃらに取材に行くことしかできなかった私に、彼らは自分と向き合うとはどういうことか、生きる意味とは何かを教えてくれていたように思います。長い取材期間、何度も壁にぶつかったこの番組を、支え手助けしてくださった諸先輩方、そしてなにより、自分の姿が誰かのためになればと、カメラの前に全てをさらけ出してくれた主人公たちにあらためて感謝いたします。この経験を糧にこれからも精進したいと思います。

講評

熱にやられた。「撮る！」というディレクターの強い熱。どれだけ現場に通ったのだろう。とにかく「画が撮れている」のだ。手を抜けばそれらしいナレーションでごまかせただろう状況説明の画さえ強い。「撮れている」からだ。撮ることが辛くなった日も、取材が頓挫しそうになった日もあったと思う。それでも撮り続け、とにかく画で現わす。それがディレクターとして最も大切な基礎である、ということを思い出させてもらった。感謝。

合六 幸恵

優秀新人賞
EXCELLENCE NEWCOMER AWARD

監督
杉本 暁子

Inside Lens
Danchi Woman
NHK WORLD-JAPAN

監督　杉本暁子
編集　山崎梓
音響効果　鈴木利之
アシスタント・プロデューサー　藤基里栄（インプレオ）
プロデューサー　加藤成子（インプレオ）
制作統括　綿山俊彦（NHK）
今村研一（NHKエンタープライズ）

受賞者コメント

私のキャリアは17年前にテレビの世界から始まりました。その後、紆余曲折ありましたが、今回このような名誉ある賞に選出していただき、驚くと同時に本当に嬉しく思っております。『Danchi Woman』は完成までに10年近くかかった作品です。出演してくださった海岸通団地の方たちをはじめ、これまでさまざまな形で『Danchi Woman』の制作に協力してくださったすべてのみなさまに心から感謝いたします。

講評

ドキュメンタリー番組の審査にあたり、自分なりの評価基準を「自分に撮影できない番組であるかどうか」と考えました。杉本さんのこの作品は、「私にはとれない」と唸ってしまいました。圧巻は、インタビュー途中で取材対象者が「寝てしまう」シーンです。こんなことありますか？と思わず突っ込みを。杉本さんの優しい眼差しが美しいカメラワークの向こうに見えてくるようでした。団地の中に現代の縮図が詰まる素晴らしい作品でした。

井上 啓子

プロデューサー　合田伊知郎（日本テレビ）
嶋寄太郎（日テレ アックスオン）
構成作家　澤井直人
細川拓朗
大平尚志

ディレクター
小林 哲平 （日テレ アックスオン）

ネクストブレイク
天才のシロクロード　～アレがあるから今がある～
日本テレビ放送網

受賞者コメント

今回は企画・演出した「天才のシロクロード」が関係者や多くの方々に認められたということが非常に誇らしい限りです。この賞は自分だけの成果ではなく、自分を支えてくれた上司や同僚の皆様、そして何より、深夜のバラエティ番組にも関わらず出演してくださった隈研吾様には大変感謝しております。今後は映像クリエイターらしく視聴者が面白いと話題にするような番組を制作し続けたいと思います。

講評

「失敗から学ぶ」というフォーマットは少なくないけれど、この番組は、その紋切り型ではなかった。説教臭さがなく、あの世界の隈研吾氏が、「ふにゃふにゃ」した、とても面白く、身近な人に見えた。（語弊を恐れず言うなら、世界的建築家、という格好良さは消えていた）バラエティに出ない隈氏の、バラエティな魅力を発掘し、バラエティ的に動かした。大物ゲストへ遠慮しない大胆な演出と度胸が素晴らしいな、と思いました。

合六 幸恵

奨励新人賞 ENCOURAGEMENT NEWCOMER AWARD

プロデューサー　東卓夫(テレビ朝日)
新津総子
(ドキュメンタリージャパン)
ディレクター　押田幸(ドキュメンタリージャパン)
撮影　門脇妙子　/　編集　斉藤淳一
構成　長谷川三郎(ドキュメンタリージャパン)
音響効果　金田智子

ディレクター

押田 幸 （ドキュメンタリージャパン）

テレメンタリー2018　ボンドの家 女性保護シェルターの半年
テレビ朝日

受賞者コメント

ボンドプロジェクトの橋ジュンさんから「一時保護施設を作ろうと動いている」と聞いたのは、2017年夏のことでした。若年女性の問題は表面化しづらく、周囲に助けを求めるまでのハードルが高いと言われています。だからこそ彼女たちの必死に生きる姿を通して、関係ないと思う人にも届く番組にしたいと思って作りました。デリケートなテーマでしたが、今回の受賞を出演者の方々が喜んでくれたことが何より嬉しかったです。

講評

審査をしていると、正直「予想がつく流れ」の番組も多い。「見たことないような番組見たいなー」とか不遜なことを思ってしまう。しかし「ボンドの家」はそんな考えを覆す番組だった。派手な演出はないが、志を持ち地道に取材をすることの大切さをつきつけられた。情報が溢れる時代で私たちに何ができるのか。現場を凝視し、今、世の中に必要なことを伝える。この作品の心をいつまでも忘れないでいてほしい。

井上 啓子

制作統括　須崎岳(NHKエンタープライズ)
演出　鹿島悠(NHKエンタープライズ)
美術　浅野菜摘(NHKデザインセンター)
技術　小倉忠(NHKメディアテクノロジー)
撮影　中村直史(NHKメディアテクノロジー)
音響効果　井上直美(NHKデザインセンター)

演出

鹿島 悠 （NHKエンタープライズ）

第42回創作テレビドラマ大賞　週休４日でお願いします
NHK総合

受賞者コメント

本作は脚本コンクールの大賞作品。脚本家にとっては、やっと掴んだ大事なチャンス。私の演出で台無しにし兼ねない、とプレッシャーを感じていました。けれどいざ始まると、チーム全員が「より面白くするには？」と一緒に考えてくれて、とにかく楽しい日々でした。昨年に続き“奨励”されてちょこっと複雑ですが、「参加できて良かった」というスタッフの言葉、「私は大満足です」という脚本の石原さんの言葉を励みに、精進します！

講評

みずみずしい演出が光る作品。ハードワークで息苦しい現実を生きる主人公と、そんな現実から抜け出してファンタジックな世界に生きるヒロインが、光の明暗を駆使して対照的に描かれている点が見事だった。また、こけしという一見地味なモチーフを、丁寧なリサーチを重ねてあの手この手で描写されており、いかに魅力的に見せるかという演出家のこだわりが強く感じられた。次回はオリジナル企画を期待しています。

中尾 幸代

プロデューサー　岡村光二(テレビ朝日映像)
チーフディレクター 安部彰造
(テレビ朝日映像)
ディレクター　谷口彦薫(テレビ朝日映像)

ディレクター

谷口 彦薫 （テレビ朝日映像）

月曜特集「観光案内所シリーズ企画」　スーパーＪチャンネル
1.羽田空港案内所 / 2.新宿観光案内所～夏～ / 3.新宿観光案内所～秋～
テレビ朝日

受賞者コメント

外国人観光客の多種多様な要望に対し、懸命に対応する案内所スタッフ。「日本を好きになって欲しい！」そんな熱い思いを、取材を重ねる度にスタッフの仕事ぶりから感じます。現在、SNS上などで観光情報が溢れていますが、些細な気遣いや優しさを持って案内する姿勢こそが、一番「日本らしい部分」なのかもしれません。今回、素晴らしい賞をいただけたこと、そして取材で協力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。

講評

今回も放送枠・予算・放送分数などが多様すぎて、審査の基準が難しかった。今、ニュース番組の特集企画は、ドキュメンタリーからバラエティー要素の強い企画が多くなった。この作品は、一人で取材をして観光案内所からまた人を追い、外国観光客の想いを良く描いていた。何か国も話せるというディレクターが相手との距離を縮め必要以上のものを映し出せていると面白く視聴した。今後、彼が長尺番組をどう企画・構成するか期待したい。

天笠 ひろ美

企画・演出　本田拓也(日テレ アックスオン)
プロデューサー　笹木 晢(日本テレビ放送網)
宮本晴広(日テレ アックスオン)
森 千花子(日テレ アックスオン)
津留正宏(日テレ アックスオン)
ディレクター　藤村 潤(日テレ アックスオン)
松尾郁弥(日テレ アックスオン)

企画・演出

本田 拓也 （日テレ アックスオン）

プラチナイト Mr.ボディーガード
日本テレビ放送網

受賞者コメント

この度はこのような賞を頂戴し誠にありがとうございます。本番組は今のテレビ業界では唯一無二だと自負しています。日本大学で爆破、ワニ登場、さらに大型セット設営…その全てがどれも貴重な経験ばかりでした。このような番組を僕のような若造に任せてくださった日本テレビ・日テレアックスオンの大人の皆様、番組制作スタッフ、そして日本大学関係者の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

講評

この作品が今後のテレビ番組でどういった意味を持つのか考えた場合、２つの要素がカギを握っていると思う。ひとつはテレビが築いてきた「どバラエティー」的要素、もう一つは未来も流行り続けるだろう「ゲーム」的要素。この２つの要素がうまくかみ合っていくとテレビのバラエティー番組は発展していくのではないか、とこの作品は思わせてくれる。本田Ｄが大勢の現場スタッフを仕切る気合も感じる作品である。

高井 健司

演出担当　安池 薫(ザ・ワークス)
プロデューサー　城野麻衣子(ザ・ワークス)
菊地裕幸(ザ・ワークス)

ディレクター

上田 迅 （ザ・ワークス）

THE 突破ファイル 今日は何の日？突破記念日
長野五輪会場上空を5色に彩れ！　最高難度のフライトをクリアせよ！
日本テレビ放送網

受賞者コメント

ドラマ一筋で来て９年、まさか自分がバラエティ番組でこのような賞を頂けるとは思わず、驚いています。取材させていただいた当時の隊員・阿部様や、急な撮影のお願いにも快くご協力いただいた松島基地の皆様の期待に応えられるよう、全力で臨みました。多くの方のご協力とご期待を、このような形でお返しできたことを嬉しく思います。自身としても、この賞を起点として、今後も休むことなく成長を続け、活躍したいと思います。

講評

再現ドラマは実は難しい。真実をはみ出さず演出し、視聴者に響かせなければならないから。そんな中この作品には素直にジン、とした。それは「取材と演出の丁寧さ」によるものでは、と思う。さらに本物の基地を借りて芝居が撮れたことにより、リアリティが増し、スタジオのワイプが「すげえ！実際の現場を借りたの！」と声を上げていたが、それは視聴者の声でもあると思う。「丁寧に撮れる」は武器。今後も是非磨いていただきたい。

合六 幸恵

特別賞
BEST NEWCOMER AWARD

田原 総一朗

受賞者コメント

こうした賞をいただいたことは、誠にありがたいと感謝しています。実は、私は戦争を知っている最後の世代でして、その体験を若い世代に何としても伝えたいと思います。社会科の本格的授業は、小学校五年生からで、一学期に、教師たちに、この戦争は、世界の侵略国である米・英を打ち破り、両国や仏・蘭などでの植民地にさせられているアジアの国々を独立させるための正義の戦争です、きみらも大人になって正義の戦争に参加せよと強くいわれた。だが、八月一五日に玉音放送を聞き、二学期に入って、米軍がやって来ると、同じ教師、そしてラジオも新聞も、あの戦争は、やってはならない、悪い戦争だというようになった。このために、私たちは、教師を含めて、エライ大人たちのいうことは信用できない、マスコミも信用できない、と強く思った。これが私たちの原点で、こうした体験について若い世代にいい伝えたいと思っている。

推薦理由

伝えるとは何か？ テレビとは何か？
常にそのことを問いかけながら、変わらぬ好奇心と、どこまでも本気を貫く姿勢は、私たちが範とするべき存在です。テレビ界にもたらした多大な功績への敬意と、テレビマン全員からの感謝をこめて、ここに特別賞を贈いたします。

樹木希林さんと親交の深かった浅田美代子さんにトロフィーと賞状を受け取っていただきました

樹木 希林

受賞者コメント

この度は文字通り「特別」な賞を母が頂き、誠に有難うございます。半世紀以上昔、役者の理想の仕事順位は、1に舞台、2に映画、3にテレビで、最後にCMと言われていたそうです。当時、まだ駆け出しの役者だった母は、そんな頃からテレビやCMが大好きで、瞬時に世相が映し出される現場を率先して面白がっていたそうです。人様からの評価を物ともせずに時代を経て来た母が、この世から去った今、このような賞を頂くなんて、正に母らしい締めくくりではないでしょうか。

文章家　内田也哉子
（希林館）

推薦理由

テレビドラマではお茶の間を釘付けに、CMではお正月の風物詩となり、映画では女優として演技を世界に認められたあなたの残した表現や言葉はいつまでも人々に語り継がれると確信します。樹木希林さんありがとうございました。

総務大臣賞
MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD

スローな武士にしてくれ
京都 撮影所ラプソディー

オッティモ、NHKエンタープライズ / NHK BSプレミアム

制作統括　伊藤純（NHKエンタープライズ）
　　八木康夫（オッティモ）
プロデューサー　川崎直子
　　（NHKエンタープライズ）
製作担当　森井敦（東映京都撮影所）
撮影　朝倉義人（東映京都撮影所）
DIT　近藤将司（オッティモ）
演出　源孝志（オッティモ）

受賞者コメント

総務大臣賞をいただくことになり、スタッフキャスト一同喜んでおります。日本人の伝統的なモラル観、価値観がギュッと詰まった時代劇。子供の頃からそれを見て育った我々は、知らぬうちに他の国の人々とは違う日本人独特の感性を身につけていったのではないかと思います。そのテレビ的復権を図るべく、痛快娯楽時代劇を最新の映像技術で作れたことは望外の喜びでした。複雑怪奇な最新メカと格闘した撮影所の職人軍団に、心から敬意を表します。

作・演出　源 孝志
（オッティモ）

総評 COMPREHENSIVE EVALUATION

多数決に頼らず制作者の思い受け止め審査 ―

審査委員長
沼田 通嗣

第35回のATP賞は原点に立ち戻り“制作者の思いを大切に審査する”を方針に据え、各部門の審査委員に候補を挙げてもらい、その上で全ての作品一つ一つを出来るだけ多くの角度から検討を重ねました。情報・バラエティー部門は時代の先端を反映させる思いの強い作品、ドキュメンタリーは真実を伝える思いに溢れた作品、ドラマは限られた予算の中で、できる限りの思いを込めた作品。“制作者の思い”を審査方針に据えたことでより深く作品を見つめることが出来、その結果として各作品の制作者に改めて尊敬の念を強く感じながら審査を進めました。最終的な贈賞作品の決定に際しては決して多数決に頼り結論を出すのではなく、少数票の作品であっても審査委員が制作者の思いを受け止め、強く贈賞を主張した作品は最後まで候補として検討し、最優秀賞、優秀賞、奨励賞、総務大臣賞候補の順で決定しました。全ての選考過程で公正を期し審査を終えたことをここにご報告し全体の講評とさせていただきます。

部門講評 DIVISION REVIEW

● ドキュメンタリー部門 ●

忘れ去られるテーマ
「自分が伝えなければ」
気概溢れる作品多数

ドキュメンタリー部門として今回62本が応募された。ドラマやバラエティに比べ放送枠や制作予算が厳しいにも関わらず、意欲的な作品、鋭い視点で社会を、時代を切り取った作品が数多く出品されたことに感銘を受けた。ニュース等で伝えられる情報により、多くの視聴者が持つ一般的な概念と印象。その陰に存在する正反対の事実やそれにより葛藤し苦悩する人々の姿。それは明らかな一つの真実であり、ドキュメンタリー番組が伝えるべきテーマである。ややもすれば見過ごされ、忘れ去られてしまう恐れがあるこうしたテーマを「自分が伝えなければ誰が伝えるんだ…」そんな気概で作り上げた作品が多数存在した。ドキュメンタリーはしっかり生き抜いている。

審査委員　高安 克明

● 情報・バラエティ部門 ●

クリエイターの拘りが
心躍らせる作品
時代の変化感じる結果

この数年間では最多の60作品の応募がありました。改元にまつわる作品が多く、情報・バラエティ部門としては、時代の反映は然るべきであります。またその内容も直球ではなく、クリエイターの拘りが心を躍らせる作品が多くありました。一方、熾烈なゴールデンタイムの視聴率競争の中、一度見たら離すものか！と引きずり込む「東大王」のクイズの出題順や演出手法に驚かされました。応募作品の全体では、4K8Kの応募や、配信系作品のエントリーが多くありました。テレビ番組の枠にとどまらない時代の変化を感じる結果になり、今後もATP加盟社の映像制作のフィールドが拡大することに期待です。

審査委員　伊藤 慎一

● ドラマ部門 ●

審査は慎重に熱く進行
ドラマ界活気づくために
民放ドラマの増加に期待

今回ドラマ審査会において、最優秀賞は即決したが、そこからが時間がかかった。審査員を悩ますほどに幅広い作品が集まったということで、これは良いこと。毎年のことながら、限られた制作費のなかで、多くの制作者が工夫してそして苦労して作り出した作品群を、審査会はとても慎重にそして熱く進行し決定に至った。今回特筆すべきは、放送局系列会社以外の製作会社からの応募が激減したことだ。民放から製作会社への発注数が激減している事情がある。結果的に、今年の応募作品は、NHK放送の作品が例年より多くなり、必然的に受賞作品も比例する。今後、民放から製作会社への番組発注数が再び増えれば、ドラマ界全体が活気づくだろう。

審査委員　佐野 奈緒子

新人賞総評 NEWCOMER AWARD REVIEW

“3つの指針”+αを考慮し審査 ―

審査委員長
井上 啓子

新人賞選考の「審査の指針」は次の3つとしました。①企画は本人が立てたものであることが望ましい②企画に「新しい発想、挑戦」があるか。③荒削りでもいいので、演出にみずみずしいエネルギーを感じるか。さらに、ドキュメンタリーでは「取材力」、ドラマでは「ストーリーを引っ張る力」、バラエティーでは「演者だけに頼らない面白さ」も考慮しました。ドキュメンタリーで優秀新人賞に選ばれた杉本さん、長谷川さんの圧倒的な取材力には感服させられました。効率化やスピード化が求められる中、時間をかけ丹念に取材することの素晴らしさを再認識させられる番組だったと思います。情報バラエティーで優秀新人賞となった小林さんの「天才のシロクロード」は、新たな視点で取材者の魅力を引き出した点が評価されました。残念ながらドラマの優秀新人賞は議論の末、該当者なしとなりました。ドラマの応募数は少なく、来年以降たくさんのご応募をお待ちしております。

総務大臣賞総評 MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD REVIEW

海外展開期待できるエンタメ性が決め手 ―

審査委員長
林 健嗣

令和最初の総務大臣賞選考は、ここ数年で最も難しいものでした。多角的視点から海外展開が期待できるエンターテイメント性が決め手となりました。歌を通して、日本の風景と心の機微を記録した「平成万葉集」は、課題はあるものの記念碑的作品となっていました。Tokyo Docs 2017で最優秀企画賞を受賞した「テロリストの母と呼ばれて」は、分断される世界情勢下で取材を継続してきた執念が光る優れた作品でした。最終選考は、高精細映像で制作された二つのドラマに絞られました。ノーベル賞作家カズオ・イシグロの原作で、時代に翻弄されていく心の陰影を8K映像で描いた「浮世の画家」、もうひとつは、「時代劇」を介して、新旧映像職人たちが新たな表現に挑戦しようと挑む撮影所騒動をコメディータッチに仕上げた「スローな武士にしてくれ」。審査員の意見は大きく分かれましたが、技術革新と職人技との葛藤を上質なエンターテイメントに仕上げた「スローな武士にしてくれ」を総務大臣賞に決定しました。

◆審査委員会
審査委員長　沼田 通嗣(テレパック)

ドキュメンタリー部門 審査委員
伊豆田 知子(スローハンド)
稲垣 綾子(バオネットワーク)
高安 克明(いまじん)

情報・バラエティ部門 審査委員
伊藤 慎一(シオン)
大野 光浩(えすと)
松葉 直彦(テレビマンユニオン)

ドラマ部門 審査委員
雨宮 望
内丸 摂子(東阪企画)
佐野 奈緒子(大映テレビ)

◆新人賞
審査委員長　井上 啓子(クリエイティブネクサス)
審査委員　天笠 ひろ美(ザ・ワークス)
合六 幸恵(ジッピー・プロダクション)
高井 健司(東阪企画)
中尾 幸代(アズバーズ)

◆総務大臣賞
審査委員長　林 健嗣(《a》)
審査委員　佐藤 幹夫(NHK エンタープライズ)
品田 英雄(日経 BP)
長谷川 朋子(放送ジャーナル社)
代情 明彦(AOI Pro.)

主催：一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟
後援：総務省、経済産業省、日本放送協会、日本民間放送連盟